



# 南牧小・学校評価だより

No.2

南牧村立南牧小学校  
令和4年12月実施

令和4年度第2回の学校評価アンケート集計ができましたのでお知らせいたします。

学校では、引き続き成果と課題を明確にし、課題に対しては改善策を考え取り組んでまいります。今後もご支援、ご協力をお願いいたします。

令和4年度学校評価一覧表（評価者の欄はA+Bの割合を%で示しています）

## 教育目標の達成状況

評価の観点	評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】	評価者			評価
		職員	保護者	児童	
やさしく	返事や挨拶がしっかりできる	91%	100%	87%	A
	人の気持ちを感じて行動できる	91%	100%	93%	A
	感謝の心で人や自然に接することができる	100%	93%	100%	A

評価の観点	評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】	評価者			評価
		職員	保護者	児童	
かしく	夢の実現に向けて、意欲的に学習する	82%	73%	80%	B
	課題解決に向けて、自ら考え、判断し、表現する	91%	80%	80%	B
	人や自然に学び、創意工夫する	91%	87%	67%	B

評価の観点	評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】	評価者			評価
		職員	保護者	児童	
たくましく	運動に親しみ、健(すこ)やかな身体と康(やす)らかな心を鍛える	100%	80%	87%	B
	失敗や困難に負けず、強い心で何事にも取り組む	91%	73%	87%	B
	危険を予測し、主体的に判断し、命を守る行動がとれる	100%	80%	80%	B

## 本年度の努力点についての評価 No.1

評価の観点	評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】	評価者		方 策	評価	成果と課題	3学期の方策
		職員	保護者				
豊かな人間性の育成 【やさしく】	人権教育及び道徳教育を核として心の教育の充実に努める。	91%	87%	・人権週間や児童会を中心とした活動の充実 ・日常における道徳指導の充実	B	・日常生活において、児童が相手を意識し、相手に合わせて対応できるようになってきている。 ・児童がより主体性を発揮しながら活動を進められるよう、児童が考える場を多く設定しながら支援していく。	・様々な場面において、常に自分事として考えられるようにすることで、日常生活と道徳を結び付けて取り組めるようにする。 ・児童が主体的に取り組み、議論しながら考えていく場面を多く設定する。
	ふるさと南牧村を愛する心を育てるとともに、自己理解・自己実現を図るキャリア教育の充実に努める。	100%	93%	・南牧のよさを実感できる教育活動の計画的推進 ・自己の成長を実感できる「キャリアパスポート」の活用	A	・総合的な学習の時間や生活科において、地域とのつながりを意識した教育活動が充実してきた。 ・活動の前後でキャリアパスポートや振り返りカードを活用することで、児童や教師が取り組みを把握し評価することができた。	・南牧のよさを実感できる教育活動の計画的推進を今後も行っていく。 ・自己の成長を実感できる「キャリアパスポート」の活用を継続して行い、活動の評価を次の活動へ生かしていくようにする。
	小さな変化を見逃さず、不応や問題行動については組織的な対応に努める。	100%	73%	・日常の観察やアンケート等による問題の早期発見 ・担任間、管理職との連絡を密にした早期対応	B	・生徒指導会議などを通して教師間で情報共有し、いじめの早期発見早期解決を行うよう取り組めた。 ・児童一人ひとりが自己有用感をもてるよう、児童の活動を評価し意欲を高めていけるようにしていく。	・日常の観察やいじめアンケート等による問題の早期発見を心がける。 ・担任間、管理職との連絡を密にした早期対応を心がける。 ・児童の取り組みに対して共感的な姿勢で認めていくようにする。
	よりよい人間関係づくりを基盤とした学級経営に努める。	100%		・共感的な児童理解と社会性を育てる活動の充実 ・教育活動全体を通じたコミュニケーション能力の育成	A	・児童理解に努め、一人ひとりに合った支援を行っていくことで、児童の適切な関係を築いていこうとする意識の高まりが見られた。 ・児童が主体的によりよい人間関係を作っていくよう、成功体験だけでなく失敗体験も共有しながら、お互いを高め合っていくようにする。	・共感的な児童理解と社会性を育てる活動の充実に努める。 ・教育活動全体を通じたコミュニケーション能力の育成を図る。
確かな学力の向上 【かしく】	「南牧小授業スタンダード」を基に指導方法の工夫・改善を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に努める。	100%	80%	・全国学力学習状況調査やその他の学力検査等の結果活用 ・「南牧小スタンダード」の継続・改善	B	・学力向上への取り組みの振り返りや全国学力状況調査の結果分析をし、課題の把握と授業改善に努めた。 ・「南牧小スタンダード」を意識し、日々の授業改善に努めていく。	・昨年度のCRTの過去問題やドリル学習を活用し、基礎基本問題に取り組ませる。 ・校内研修で「南牧小スタンダード」を継続的に振り返り、改善に努める。
	ICTの活用により、個別最適な学びと協働的な学びを充実させた授業改善に取り組む。	100%	73%	・日々の授業におけるICTの活用 ・校内研修の充実	B	・教師一人ひとりが意識して、より効果的なICTの活用に努めている。 ・ICTの活用は進んでいるが、効果的な活用については研修等を通して有効性を検討しながら授業に生かしていくことが必要である。	・授業にICT機器を積極的に取り入れていくことを継続する。 ・授業で取り入れたICTの活用の有効性を検討し、次の授業に生かしていくとともに職員間で共有を図っていく。
	「家庭学習の手引き」を活用して家庭と連携を図り、家庭学習の習慣化に努める。	73%	80%	・「みんなのやくそく」の全校共通体制での活用 ・お便りや懇談会等での家庭学習の内容や取組の周知	B	・家庭学習の内容や取り組みの内容を、自主学習ノートや掲示物を通して家庭への周知ができた。 ・自主学習などへの取り組みをより充実できるよう、今後も学校と家庭で連携しながら進めていく。	・お便りなどで自主学習への取り組みを積極的に紹介していく。 ・はなまる学習コーナーを活用し、家庭学習の意識付けを図る。
	児童自ら考え学び合い、児童が主体の授業実践に努める。	91%		・児童の実態把握と必要感、必然性のある課題の設定 ・チャット機能の活用	A	・一人1授業の指導案検討を通し、課題の設定について、共通理解を図ることができた。 ・授業でのICTの活用をチャット機能で報告し、よりよい授業づくりに努める。	・日々の授業をしっかりと振り返り、よい点や改善点を明確にし、次の授業へ生かし、授業力向上に努めていく。 ・定期的に自身の取り組みを投稿し、授業アイデアを共有する。

健康 【たくましくづくり】	食育、健康教育や安全教育を充実させ、家庭との連携により、基本的な生活習慣の定着に努める。	100%	87%	・新型コロナウイルス等感染症への理解と予防対策の徹底 ・健康に関する授業や学校保健委員会等を通じた啓発活動の推進	A	・健康観察や検温などの感染症対策は継続しているが、状況の変化による対応のしかたが徹底されない部分がある。 ・食育集会や臨時保健集会を実施して、健康について学習した。	・引き続き、コロナ感染症予防に気を配りながら、学校行事などを実施していく。 ・保健指導(学活)の資料を整理し、系統的に各学年で実施できるようにする。
	体力向上プランの組織的な取組に努める。	91%		・運動習慣の定着と運動の質的・量的確保 ・新体力テスト結果等の分析による運動領域の重点化	A	・休み時間の外遊びでは、異学年の児童と交流し楽しく活動できている一方、外遊びする時間が少ない児童がいる。 ・積極的に運動をする児童がいる一方、苦手意識から運動に消極的な児童もいる。	・休み時間に外で遊ぶように声をかけ一緒に活動したり、全校遊びを実施したりする。 ・目標をもって運動ができるように「なわとびカード」を使うなど工夫する。
組織的 で活力ある 学校づくり	互いの特性を認め、学び合い、高め合うことのできる教職員集団づくりに努める。	100%		・校内におけるOJTの充実 ・教職員一人一人のよさを発揮できる場の設定	A	・OJTを通して、授業の進め方の共有化や職員の資質の向上につなげることができた。 ・担任間での授業参観は時間的に充分とは言えなかった。	・職員の専門性や得意分野を生かし、さらに多くの分野でOJTの充実を図る。 ・引き続き、授業改善と指導力向上に向け、担任間での授業参観を行っていく。
	人事評価制度を適切に活用し、学校経営への参画意識を高めるよう努める。	100%		・面談機会の活用と進捗状況の報告、確認 ・経営方針に沿った業績評価の目標設定	A	・中間面談を通して、これまでの職務の遂行状況や成果等について振り返ることで、今後の課題を整理し改めて目標設定を行うことができた。	・設定した目標の達成に向けた実践について定期的に確認する。 ・引き続き、授業やその他の教育活動の参観を通して、管理職と目標達成状況について確認し合う。
	校内研修を核として職員研修の充実を図り、教職員の指導力向上に努める。	100%		・校内研修の研究授業を通じた指導力と授業分析力の向上 ・教職員の資質向上を目指した研修の実施	A	・研究主題に沿って研修を進め、目的意識をもって研修に取り組むことができた。 ・授業研究会では、授業における成果と課題が明確になり、職員の授業力向上につながった。	・授業研究会で出た課題を分析し、それに対する改善策を考え、次に生かせるよう共有化を図る。 ・校外での研修等で得た情報を共有することで、本校の実態に合った研修に生かしていく。
	校務の精選と効率化による業務改善の推進と勤務時間の適正な管理に努める。	91%		・業務の見直しと情報の共有化 ・在校時間等記録表による勤務時間の管理の徹底	A	・職員会議等で議論し業務の見直しを図り、学校経営会議や学級経営会議等の場を通して情報を共有することができた。	・1・2学期の反省を生かして仕事の内容を吟味し、より効率的な働き方を推進していく。 ・勤務時間内での校務に充てる時間を確保するため、校務のローテーション化や共有化を図る。
	服務規律の確保を徹底する。	100%		・「規律確保行動計画」の沿った研修の実施 ・「服規律チェックシート」による毎月の確認	A	・会議や打合せの中に、服務に関する研修を位置付けることで、職員の啓発につながった。 ・「服規律確保チェックリスト」で自己点検を行うことにより、服務規律の確保に努めた。	・引き続き、非違行為の根絶に向けて、計画的に服務規律に関わる研修を行っていく。
安全で 安心な 学校づくり	学校安全マニュアルの共通理解により、危機管理の徹底に努める。	100%		・様々な時間と事態を想定した避難訓練の実施 ・校舎内外の毎月の安全点検実施	A	・実際に想定した「予告なし」で「休み時間」の地震避難訓練を行うことができた。 ・安全点検を実施して、危険な箇所がないか確認し、事故を未然に防ぐように努めた。	・避難訓練は、今年度の反省を生かして、次年度に向けて計画していく。 ・日常的に安全面に気を配り、故障や危険箇所は早期に対応してもらうようにする。
	適切な予算執行により、教育環境の整備・充実に努める。	100%		・執行状況の共有化	A	・学校予算の教職員への提示と執行状況を行った。 ・安全主任と連携を図り安全点検結果をを参考にした環境整備ができた。	・年度末に向けて予算執行状況の再確認を確認しながら、教育活動における整備・点検を引き続き行う。
地域と ともに ある 信頼される 学校づくり	学校評価・学校運営協議会等を活用し、学校課題を把握し改善を図る。	100%		・学校評価や学校運営協議委員会からの情報収集と課題の明確化 ・改善策の計画的な実行と定期的な振り返り	A	・第1回学校評価の結果と学校運営協議会からの助言等から、成果や課題が明確になり、改善策としての方策も推進できた。	・第2回学校評価の成果と課題を生かし、学校課題の改善を図っていく。 ・定期的に振り返りながら3学期の方策の着実な実施に努める。
	学校Webページや各種通信等により、積極的な情報発信に努める。	100%	87%	・Webページや各種通信等による ・学校行事や日常の様子等の情報提供	A	・定期的なWebページの更新や通信等の配布により、必要な情報を継続的に提供することができた。	・今後も魅力のある情報を収集し、その情報をより興味をもって見てもらえるような発信の仕方を模索していく。
	地域人材や施設・自然の活用を通して、地域のよさを生かした教育を推進する。	100%	80%	・ふるさと朝礼、総合等での年間計画に基づいた資源の活用 ・南牧村を愛する気持ちにつながる活動を取り入れた活動の工夫	B	・総合的な学習の時間を中心として、ふるさと南牧のよさを感じられるような学習活動やテーマを設定し取り組むことができた。	・学習活動や課題をより一層精選し、地域のコーディネーター役になる方と連携をとって、地域のよさを生かした教育の推進につなげていく。
	保育園や中学校との連携を推進し、幼児教育及び義務教育9年間の系統性ある教育活動に努める。	91%		・小中連携の会議による共通理解と共通教育活動の実施 ・保小中連携による行事や授業参観の実施	A	・中学校の教員が授業を担当している学年を中心として、様々な場面で情報を共有し、指導や支援に生かすことができた。 ・保小の情報交換の場を設定したり、保育園の授業を参観させてもらったりしたことで、園児の様子について共通理解することができた。	・保小、小中の連携だけでなく、3つの組織で情報交換できる場を設定し、情報を共有していく。